



双子の蚯蚓

シゲル

花子さんのお友達は小さな蟲や、小鳥でありました。

いつも大きな櫛の木の下来ては、虫や小鳥とお話したり、いつしよに遊んだりしました。花子さんには、小鳥の歌や蟲の鳴き聲がよくわかりました。特別に蚯蚓とは大の仲よしでありました。

或る時、蚯蚓の双子が急に居なくなりました。ほかの蚯蚓達はびつくりして大急ぎで、花子さんの所に言ひに来ました『お嬢さんおちやうさん。いつも可愛がつて下さつたあの双子が急に居なくなりましたので、みんな大變心配して、これから

土の中へ探しに行く所なのです。若しおちやうさんが見つけて下さつたら、此の木の所で足ぶみして私共に知らせて下さいネ』さう云つて蚯蚓達は双子を探しに出かけました。その道々で蚯蚓達はこんな事を言ひあひました『あたしたちに眼があつたらいいにネー。今までは土の中にもぐつて居ればよかつたから、眼なんかいらなかつたけど、双子を探がすのには眼がないと少し困るネー』といひながら、あちこちとさぐり歩きました。澤山の蚯蚓共は双子を探しに方々のおうちからぞろぞろ集まつて来てくれました。蚯蚓のおうちといつ

てもまつくらな土の中なのです。みみずは、そういふ所が大好きなのです。夏は涼しく冬は暖かだからなのでせう。

さて一番始に森の中を探して歩きました。みみずの國の森といふのは、いろ／＼の木の根がしげつてゐる所です。白い根や茶色の根を攀ぢのぼつたり、もぐつたりしてたづねました。けれども双子は見つかりませんでした。緑色した柔らかい根の所にみみずの子供達がいつばいブランコしたりかくれん坊したりして、ワイ／＼遊んで居りました。けれども双子たちはその中に交つては居りませんでした。

そこで、みんなは其の森をぬけて蚯蚓の國のお畑に行きました。此處では大勢の蚯蚓のお百姓さん達があちらこちらと這ひまはつては、一生懸命に種をおこして居りました。地面の上で人が折角播いた種も泥の中でねて居ては、奇麗なお花が咲

きませんからせう。けれども、そのお百姓さん達の中にも双子さんは見つかりませんでした。いたい、どこに双子は居るのでせうネ。

それから、みんなはまた歩いて行きますと、丁度一匹の黄金虫とあぶとが泥の上に這ひ出やうとして居るのに出あひました。此の者達が大きなグ／＼廻る眼を持つて居るのを、蚯蚓達はよく知つて居ましたから、モシモシあなたをよく見えるお眼々で、迷ひ兒になつた双子の蚯蚓を探して下さいなと、頼みますと、二匹の者は『ヨシ／＼』と直ぐ仲間に這入つてくれました。此れからは眼あきがいつしよだといふので、蚯蚓共は大變方づよくなつてずん／＼歩き出しました。

『オヤ、むかふの方に眞つ白な袋が轉つて居るヨ。何だらう』。二匹の者がまづ見つけてくれました。若しかすると此の中にも這入つて居はしないかと思つてみんなで叩いたりさはつたりしましたら

中から小サナ小サナ聲がして、『モシモシ誰れですか、わたしのおうちを叩くのは。私は蛹ですよ、もう奇麗な蝶々になつて外を飛んで歩くやうになるので、今のうちは、こうして繭の中で眠つておくのです。どうか邪魔をしないで下さい。』といひました。そこで双子の事をさきますと『知らない』とどなりつけました。みんなはびつくりして逃げ出しました。

暗いくらい泥トンネルをいくつか通つて、こんどは明るい水たまりのある所に出ました。大きな岩のわれ目に溜つて居る雨水の中で、一匹の蚯蚓とくろい蟻とが、枯れ葉のお舟に乗つてユラリユラリと遊んで居ましたので、大きな聲で、双子の蚯蚓の事をたづねますと、『知らないけど、いつしよに探してあげやう』といつてお仲間に入りました。

直ぐそばの小さな泥穴に蚯蚓のお翁さんとお婆

さんとお話して居ました。『ネーおぢいさんお婆あさん。双子のみみずが居なくなつたのですけど』と申しますと、『オヤ／＼それはお困りぢやろ。わたし達の子供の時にナ、よく、おなかのすいたこま鳥の嘴につゝかれさうになつたことや、釣り針にかけられさうになつた事があつたつ。』もしも、双子さんも、そんな事でもあつたらかわいさうだから、ドウレ、いつしよに探してあげやう』といつて、こま鳥の巢の中を探したり、蚯蚓のあかん坊ばかり寝かしてある緑色の柔らかな根の間を探したりしてくれました。けれども、やつぱり居りません。『どうしたのでせう』みんなはもうくたびれてしまひました。『ホントにどうしたのでせうね』と、ハー／＼息をきらせながら、困つて休んで居りますと、天井で『トン／＼』といふ足ぶみが聞えます。『ハテナ、花子サンが見つけて下さつたのかも知れない。ドレ行つてみや

うよ』

皆は急に元氣になつてスル／＼と歩き出しました。蚯蚓のおぢいさんにおばあさん、おとうさんにお母さん、近所のお友達やらおぢいさんやら、黄金虫だの虻だの蟻だの、ゾロ／＼ズル／＼、上へ上へ、上へと暗い泥のトンネルやお山を通つて、やつとこさで檜の木の下の明るい所に出ました。

花子さんはにこ／＼して『ホーラ双子さんよ。』みると、花子さんの両方の手の上に、ドングリの帽子がのつて居て、その中で双子サンは小さく固くうづまいて、スヤ／＼スヤ／＼と眠つて居ました。『まゝ、花子さんありがたう。花子さんありがたう』みんなはもう嬉しくておどろあがつて喜びました。

第三十二回京阪神聯合保育大會

神戸市保育會 大 西 精 一

第三十二回京阪神及吉備、名古屋の聯合保育大會は、神戸市保育會主催で、十月十七日神戸市神戸小學校で開かれた。來會者は大阪市の三百名、神戸市の二百餘名をはじめ、すべて七百三十餘名、來賓は佐藤縣學務課長、横尾市教育課長、山榊代議士、土川五郎氏、縣市會議員、各學校長其の他合せて八十餘名の多きに達し、満場立錫の餘地もないといふ盛會であつた。

會議は午前八時に開かれ、未正神戸市保育會長議長席に就き、(研究題より池永同副會長と交代)左のプ